花火を描く（5 歳）

毎年、夏休み明けには、遊戯室の壁面に花火が打ち上げられます。色とりどりの絵の具で描かれた、自由奔放な形の花火が部屋一面に貼られると、子ども達はその迫力に圧倒されると同時に、それを自分達が描いたという満足感も得ているようです。

この花火の絵は、下の写真のように、長い色画用紙に絵の具を使って、子ども達が思い思いの花火を描いたものです。

夏休み明けに花火を描くこと自体は、特別珍しいことではないかと思います。長い夏休みに経験したことを、２学期になって幼稚園で再現するという意味で、花火は取り上げやすい題材です。本園では、この題材に次のような意味を込めて教材としています。

＜描きたい気持ちを大切にして思いっきり表現する＞

２学期が始まり、夏休みとは違う生活リズムです。慣れるまでは、子どもにとって若干のストレスにもなります。そのような時だから、思う存分「描く」ことで気持ちを発散してほしいと願っています。色もたくさん用意します。用意された色から使いたい色を選び、コップに入れて使います。汚れてもいいように、水着に着替えて描いています。

＜自分の花火を思いっきり描く＞

長い紙なので、下手をすると自分の領分がわからなくなります。自分が描いているところに他児が侵入してきたら、ストレス発散どころかトラブルになってしまいます。

左の写真にあるように、一人ひとりが「打ち上げ筒」（トイレットペーパーの芯）を用意することがこの活動のミソになります。描画に取りかかる前に、自分の筒を作り、子どもが自分の打ち上げ筒からどんな花火が打ち上がるかイメージを持つように導入します。

その後、長い紙にそれぞれが自分の筒を取り付け、いよいよ筒から自分のイメージした花火が打ち上がる様子を描きます。子どもの様子を見ていると、この筒１本が子どもの花火のイメージを鮮明にするとともに、自分の花火を描きたいという目的を持って描いている様子が窺えます。

個々の子どものそれぞれの「思いっきり」が、長い１枚の画用紙に合算されて表現された時、一人の絵の効果以上の迫力になり、子ども達の満足感に繋がっていくようです。